

# 下野市立国分寺東小学校



## 1 学校課題

「自ら考え、互いに高め合う児童の育成」

～算数科を中心に知識・技能を高め 表現できる指導の工夫～

本校の教育目標である「進んで学習する子ども」「親切で実行力のある子ども」「健康でがんばる子ども」は、望ましい人間関係の中で、児童自らの課題を主体的に、粘り強く解決していく学習態度の育成を目指したものである。そのためには、児童一人一人が、土台となる各教科の基礎・基本を確実に身に付けていかなければならない。

今年度は、上記の研究主題を掲げ2年目の研究となる。算数科の指導に焦点を当て、児童の個人差に応じて学習活動を展開し、互いに高め合っていくことで、更に学校教育目標の具現化につなげていきたいと考える。

## 2 研究計画

### (1) 仮説

指導法を工夫・改善することにより、児童が基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、主体的に取り組み、学び合い、学力を向上させることができる。

### (2) 研究の進め方

#### ①全体研修

- ・ 研究の目的を明確にし、全職員の共通理解のもとに進める。
- ・ 授業研究の成果と課題を整理して、次回に活かせるようにする。

#### ②ブロック研修

- ・ 事前研究は、授業学年のブロックを中心として検討する。



研究協議 (S & U 事業)

## 3 研究内容

### (1) 具体策 (◎…本年度の重点)

#### ①授業研究の充実

- ・ 「学習するときの約束」「学習スキル」の徹底
- ・ ねらいを明確にした、分かる授業の実践

#### ◎振り返り活動の工夫

- ・ 問題解決的な学習の展開
- ・ 興味関心を高める効果的な導入の工夫

#### ◎学び合いを大切にした授業の展開

- ・ 学年内での教材研究の時間の確保
- ・ 体験的活動を取り入れた授業の展開

#### ②朝の活動の有効活用

- ・ 学習タイム(基礎的・基本的な内容の習熟)の実施
- ・ 読書タイム(物語・説明文)の実施

#### ③一人一人の課題に応じた学習活動

- ・ 習熟度に応じたコース別学習の展開
- ・ 補充的な学習の実施、発展的な学習の実施

#### ◎ノート指導の定着と充実

#### ④ICT機器の効果的な活用

- ・ 課題の提示、画像での説明、振り返り、作品制作などでの活用
- ・ 教材として蓄積されたソフト等の活用、改善(教材コンテンツ)



校内研修(学力向上アドバイザー)



出前授業(宇都宮大学附属小)

⑤指導体制や学習形態の工夫

- ・グループ活動（ペアワーク・班活動）
- ◎少人数指導（T T指導）・課題選択学習

⑥家庭学習の習慣化

- ◎家庭と連携した家庭学習習慣の定着（家庭学習カード）
- ・学級懇談会、学年通信での啓発
- ・家読推進による家庭での読書の習慣化



3年 ペアワーク

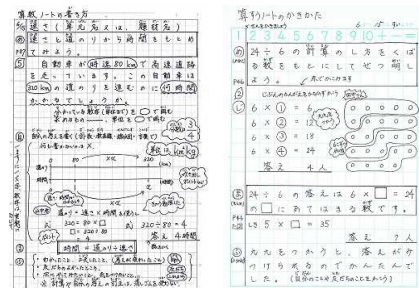
(2) 研究の実際

日時		学年	研修内容（授業は単元）	指導者・アドバイザー
5/18	学力向上アドバイザー訪問 校内	4	平成27年度学力向上改善レポート 学力向上プロジェクトの説明 「わり算」T T	新村純一先生 (学力向上アドバイザー)
6/1	第1回要請訪問	3	「わり算」T T	稲見雄太先生(市教委)
6/15	S & U 出前授業	6	「対称な図形」	神保元康先生(宇大学附小) 稲見雄太先生(市教委)
7/6	S & U 授業研究会	1	「どれだけおおい」	日野圭子先生(宇大教授)
7/26	学力向上アドバイザー訪問		平成28年「とちぎっ子学習状況調査」結果の分析	新村純一先生 (学力向上アドバイザー)
9/14	共同訪問	4 6 4 2	「正直に生きる」(道徳) 「比例と反比例」T T 「調べたことを整理し、発表しよう」 (国語) 「三角形と四角形」	清水友晶先生(下・事務所) 阿部信太郎先生(下・事務所) 岡本直美先生(市教委) 稲見雄太先生(市教委)
10/24	学力向上アドバイザー事業研究授業	3	「かけ算の筆算」T T	新村純一先生 (学力向上アドバイザー)
11/4	第2回要請訪問	6	「拡大図と縮図」T T	稲見雄太先生(市教委)
11/8	下小教研公開授業	5	「タグラグビー」(体育)	内田雄三先生(白鷗大教授)
12/5	学力向上アドバイザー事業 研究授業	4	「垂直、平行と四角形」T T	新村純一先生 (学力向上アドバイザー)
2/6	学力向上アドバイザー訪問		学力向上プロジェクトの成果と課題 次年度の取り組みについて	新村純一先生 (学力向上アドバイザー) 岡本直美先生(市教委)

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ・「学習のきまり」や「学習スキル」が徹底されてきた。
- ・研究授業では、教職員が意欲的に取り組み活発な話し合いができ、課題を次に生かすことができた。
- ・朝の学習の時間では、基礎的な学習プリントなどを活用し個別指導ができる体制が整ってきた。
- ・「算数のノートの書き方」ではモデルを示して、全校体制で取り組み、身に付いてきた。
- ・家庭学習カードを工夫したり、家読リレーを継続したりできた。



ノートのモデル（下・上学年）

(2) 今後の課題

- ・ペア学習やグループ学習を取り入れ、分からないことを聴き合うなど、学び合いを大切にした授業を工夫したい。
- ・学習プリントや各行事の感想などを活用して、親子で学習について話し合うなど、家庭と連携した学習習慣の定着を図りたい。
- ・更にノートの書き方を見直し、自分の考えや友達のことを工夫して書き入れたり、計算の跡を残したりすることで、振り返りができるノート指導に力を入れたい。